

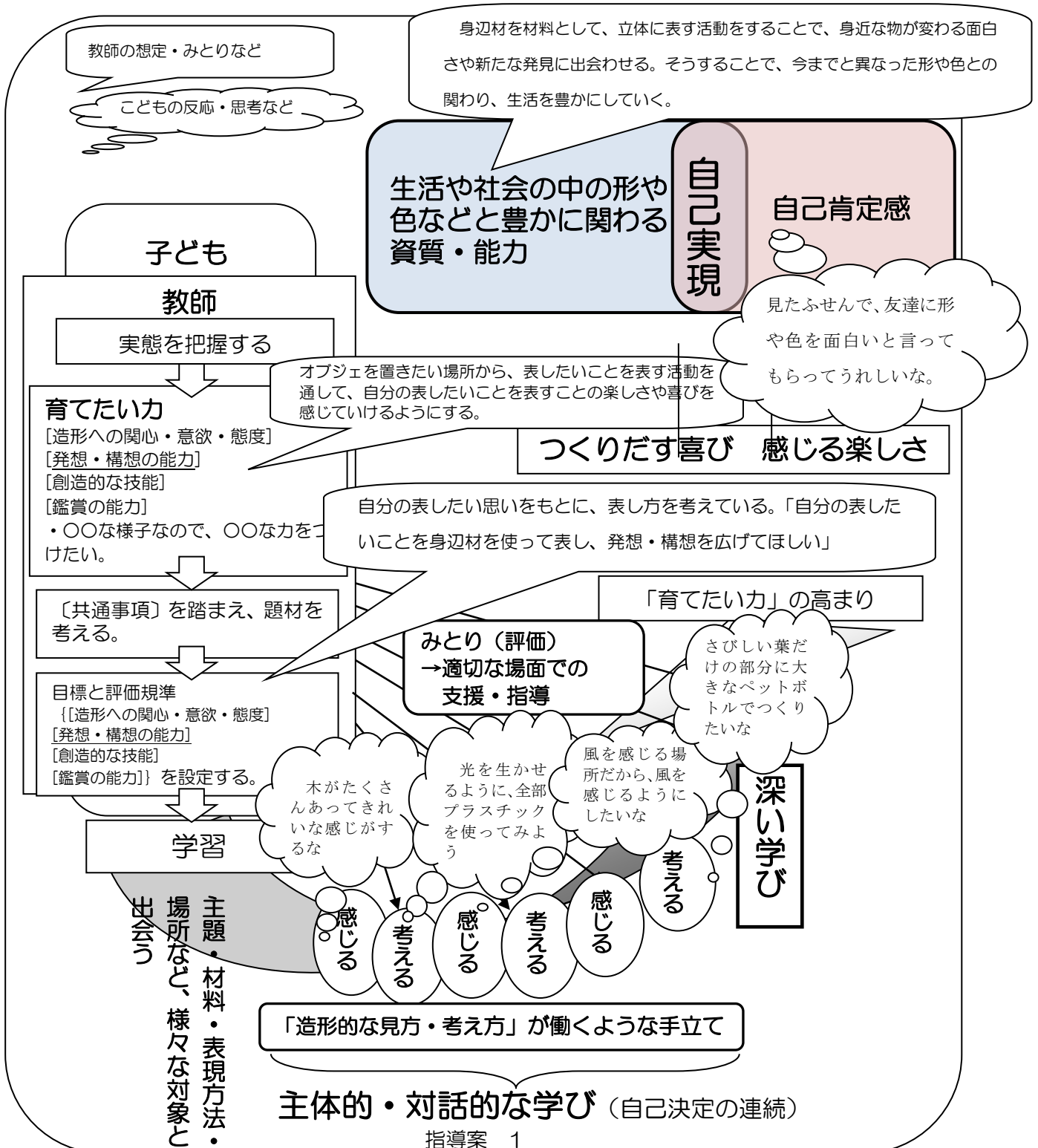
第5学年1組 図画工作科学習指導案

指導者 川崎市立川中島小学校

眞砂野 礼

1. 題材名 「ここにMYアート」 ～思いを身近な物でオブジェに表そう～
A表現(2) 立体に表す 6時間扱い

2. 「つくりだす喜び 感じる楽しさ」につながる授業の構想



3. 活動場所 図工室

4. 題材観

(1) 子どもたちの実態

男女共に仲が良く、何事に対しても素直な子ども達が多い。造形活動に興味や関心が高く、学級で「工作用の身近材を集めよう」と声をかけたところ、あっという間に様々な身近材が集まり、子ども達からは、「早く使いたい!」「何する!?!」と目を輝かせている。毎回の図工タイムに対する意欲も高く、毎回の活動を楽しみにしている。

4月は「心のもよう」で様々な技法を使って、自分だけの『色イロカード』に表す学習を行った。

これまでに学習した技法を活かしながら、様々な模様のカードをつくり出し、色の変化や模様を楽しんでいる様子だった。また、様々なコーナーを自由に行き来してよい環境にし、自然と鑑賞し合える環境にした。その結果、作品や技法について自然と対話が生まれ、鑑賞し合う様子も見られた。

また、大型連休を活用し、街のパブリックアート探しを促した。自分の住んでいる街にも様々な芸術作品があることや、色々な素材からできていることなど、それぞれの作品のよさや面白さを見つけるきっかけとした。

学級の多くの子ども達が、写真を撮ったり、スケッチをしたりして、たくさんパブリックアートを探して来た。多くの子ども達が高い関心をもって、様々な場所の作品を集めて来た。本題材の前には、パブリックアートや著名な作家の美術作品を生かした鑑賞の学習を行っている。自分が形や色、イメージから感じたことを交流し、見方、考え方を深められるように進めてきた。

また、運動会では、自分の運動会に対する思いを形や色で旗に表し、演技で使用した。自分の思いを形や色に平面で表すことはこれまでにやっている。中には、表したいことが思いつかず、戸惑っている子どもの様子も見られた。

図画工作科の学習だけではないが、「これでいいですか。」と自分に自信が持てず、担任に尋ねてくる様子が見られる。本題材では、身近な場所から、感じて考え、身近な物から自分でつくり出すことの喜びや、充実感、達成感を感じさせられるような題材にしていけるよう、工夫していく必要があると考えている。

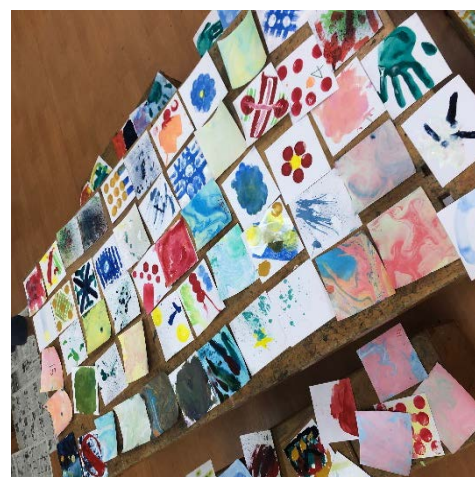
(2) 題材と育てたい力

育てたい力：発想・構想の能力

本題材では、身近な材料を使って、学校に置くためのオブジェに表す学習を行う。学校のどこに作品を置きたいか。また、その場所がどんな場所で、どのような雰囲気なのか、その場の感じから、考えを広げ、作品に表していく。

学校のそれぞれの場所の感じを生かしながら立体に表す活動から、思いを形に表すことの喜びや良さを味わって欲しい。また、「光を生かせるように、光を通す廃材を使って表そう。」や「風が感じられるように、色を工夫しよう。」等の自分の思いに合わせて、材料を選んだり、形や色を工夫したりして活動に主体的に取り組んでいけるようにする。これまでに鑑賞してきた作品は、抽象的なものも多く、見方や感じ方が様々であることを感じてきた。身近な廃材を主材料として扱うことで、自由な発想をもち、構想を広げることができるのではないかと考える。日頃破棄してしまう物も、自分たちの発想や手を加えることで、新たな物を作り出していけるという喜びを感じてほしい。

廃材から異なった作品ができていく過程を見たり、見て見たふせん等で他共に価値付けしていくことで、自分自身の作品に愛着をもち、いろいろな作品の良さを感じて欲しい。また、自分の思いを反映する体験を繰り返し、自分の「できた!」につなげていきたい。



- (3) 共通事項 (1) ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。
イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

(4) 造形的な見方・考え方が働くような手立て
～「つくりだす喜び 感じる楽しさ」につなげるために～

① 導入の工夫

学校の様々な場所を探検し、写真に残してその場所のイメージを交流する。また、自分がどんな立体作品に表したいか、どこに置きたいかを感じ、ワークシート等で考えられるようにして意欲を高めていけるようにする。場所の写真を撮影し、残すことで場所のイメージを見ながら作品づくりに取り組めるようにする。

② 前題材とのつながり

大型連休を活用して、街中のパブリックアートを探してこよう！と子ども達に声掛けをしている。それぞれの持ち寄った作品、美術作品を混ぜた作品を形や色、場所やイメージをもとに、アートレポートする学習を行ってきた。置く場所や、見方、形や色、組み合わせ等に意識して考えることで、本題材に生かしていけるようする。

③ 材料・用具について

身近材については、学級に常時設置している。材料 BOX に子ども達が集めている物を活用し、学習を進められるようにする。また、その他の用具については、表したいことを存分に表すことができるように様々な種類の材料を用意しておくようにする。

④ 材料にあった接着剤の提示

材料によって接着の仕方が異なる。そのため、その材料に合った接着材を使用できるように提示することで、自分の使いたい材料にあった接着方法を知ることができるようにする。また、図工タイムを活用して、接着の仕方については、触れてきている。

⑤ 小グループでの活動

個人ではなく、小グループでの活動を行う。立体を表す過程においても、友達と対話しながら、また友達の作品づくりの過程を見ながら取り組めるようにしていくことで、鑑賞の時間だけではなく、友達の作品のよさや面白さ、変化を感じることができる。

⑥ 見て見たふせん・ボード

自分や友達の作品を、形や色、イメージを基に自他の作品について感じたり、考えたりしたことを黒板のボードや付箋に残し、感じたことや考えたことを言葉として積み重ねていく。積み重ねとして残していくことで、学習の足跡としていきたい。また、〈見てふせん〉では、自分の作品を見つめることで、形や色などの造形的な特徴に対する考えを深めていく。言語化することで、自分なりの価値をより高めていけるようにする。〈見たふせん〉では、友達の作品を見て見つけたことを、言語化する他者からの評価も受け取ることで、自分の作品に自信をもてる手立てとしていけるようにする。

⑦ 日常的な造形活動

年度初めから、週に1度、朝の時間を図工タイムと位置づけて行っている。15分という僅かな時間ではあるが、短い時間でも造形的な活動に触れられるように、積み重ねをしている。

① カラフルマンダラ

丸シールを使ってマンダラ模様を描く活動を行った。

② ガラクタカラで遊ぼう

子どもたちが集めてきた身近材を使って、その材料の特徴を考えながら、子ども達が思いついた（並べる、重ねる、積む等）ことを行う活動を行った。

③ ペットボトルを変身させよう

ペットボトルばさみの使用の仕方を思い起こすために、ペットボトルを色々な形に変えていく活動を行った。一つの材料から、色々な物ができていく面白さを味わうことができるような活動を行った。

④ トイレットペーパーの芯を变身させよう

子ども達が集めた身近材で一番多かった物がトイレットペーパーの芯だった。「どんなことができるか。」と投げかけ、ペットボトル同様に、一つの材料から色々な物ができていく面白さを味わうことができるような活動を行った。

⑧ 鑑賞の仕方の工夫

完成した立体作品を置きたい場所へ置いて、立体作品を鑑賞しに行き、オブジェを作った子どもがその作品について説明をする活動をしたいと考えている。校内に立体作品を置くため、いろいろな人にも鑑賞してもらうことができ、コメント等をもらうことで、子ども達の自信へとつなげていきたい。

(4) 題材のねらい

○自分が表したい思いをもとに、身近材の形や色などの造形的な特徴を活かして、立体作品に表すことができる。

5. 題材の評価規準 ～ 4つの観点から育てたい力を考える ～

造形への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
○身近材からできる形や色の面白さを楽しみながら取り組もうとしている。 ○自分の思いに合わせて、立体作品の置く場所から感じたイメージを考えようとしている。	○身近材の形や色などの造形的な特徴を活かしてイメージを広げている。	○表したいことを表すために、表現方法や材料、用具などを選んだり、組み合わせたりして表している。	○友達の作品を鑑賞して、形や色の面白さを見つけ、自分の見方や感じ方を深めている。

6. 準備

- [教師] ペットボトルばさみ・糸・紐・カッター・紙粘土・ペンチ・ビー玉・おはじき
 身近材（パック・トレー・ペットボトル・段ボール・紙コップ・プラスチックカップ等）
 [子ども] はさみ・絵具セット

7. 指導と評価計画（5時間扱い）

	◇子どもの活動 ・予想される子どもの反応	○教師のかかわり・手だて ◎造形的な見方・考え方が働くような手立て	評価規準【 】と 評価方法（ ）
1 次 9 0 分	◇様々なオブジェを鑑賞する。 ・「縦にのびた木みたい。」 ・「宇宙からきたものみたい。」 ◇前題材のアートレポーターの学習を振り返る。 ・「これは、赤と青を使って、元気な様子を表している作品だと思うよ。」 ・「糸で風を表していそうだな。」	◎導入の工夫 様々な形のオブジェを提示し、色々な形や大きさのオブジェの形や色などのよさや面白さに気付けるようにする。 ◎前題材の活動を思い出せるように、学習の過程を掲示したり、スライドで見せたりしながら振り返る。	【関・意・態】 身近材からできる形や色の面白さを楽しみながら取り組もうとしている。 (発言・つぶやき・ワークシート・活動の様子)
置きたい場所から、作品のイメージを広げよう。			
	◇めあてを理解する。 ・「自分の作品を学校に置いていいの？」 ・「校庭に作品を置きたいな。」 ◇学校探検に行き、色々な場所の写真を撮り、その場所から感じたことを書く。 ◇学校探検して感じた場所のイメージを交流する。 ・「ジャングルジムの上から、下を見ると、影があって立体感があるように見えて面白かった。」 ・「図書室の棚が長く続いて、廊下みたいに見えた。」 ◇イメージスケッチをかく ・「ペットボトルをジグザグに切って風を表してみよう。」 ・「トイレトペーパーの芯と、ラップの長い芯を組み合わせて大きな作品にして、インパクトを与えたい。」	◎学校の様々な場所の写真（フルーランド・廊下・階段など）を見せ、自分の作品のイメージができるように、いくつか場所を提示する。学校に自分のオブジェを置くことに対して、興味を高める。 ◎題材名の提示の仕方を工夫して、身近材に目を向けられるようにする。 ◎学校探検をし、置きたい場所を考える。その場の写真を撮っていつでもその場の写真を見られるようにする。 ◎その場から感じ取ったことを交流することで、イメージを広げられるようにする。 ◎イメージを広げられるように、作品のイメージスケッチを描く。 ◎身近材を手にとって考えられるように材料ボックスに材料を入れられるようにする。	【発】 身近材の形や色などの造形的な特徴を活かしてイメージを広げている。 (発言・つぶやき・ワークシート・活動のおあ様子)

<p>2 次</p> <p>1 3 5 分</p>	<p>◇めあてを知る。</p> <p>◇身近材の造形的な形や色を活かして自分の思いを表したオブジェをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ペットボトルをジグザグに切って光を当てたときにきらきらしているように見えるようにしたいな。」 ・「トイレットペーパーの芯と、ラップの長い芯を組み合わせて長い大きなオブジェにしたいな。」 ・「明るくて清潔感があるから、色水を透明な容器に入れて表したいな。」 <p>◇振り返り</p>	<p>自分の思いをオブジェに表そう。</p> <p>○材料・用具の場所や接着の仕方の確認等を伝える。</p> <p>◎小グループで活動することで、グループの友達と対話をしたり、友達の作品に表す課程を見て、表現の違いやよさに気付けるようにする。</p> <p>◎見て見た付せん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんな材料から◇◇な形になったよ ・◇◇な形からこんなイメージになったよ ・◇◇な色からこんなイメージになったよ ・～さんから○○を見つけたよ。 	<p>【関・意・態】 自分の思いに合わせて、立体作品の置く場所から感じたイメージを考えようとしている。 (発言・つぶやき・活動の様子)</p> <p>【発】 身近材の形や色などの造形的な特徴を活かしてイメージを広げている。 (発言・つぶやき・活動の様子)</p> <p>【技】 表したいことを表すために、表現方法や材料、用具などを選んだり、組み合わせたりして表している。(発言・つぶやき・活動の様子)</p>
<p>3 次 4 5 分</p>	<p>◇めあてを知る。</p> <p>◇鑑賞した感想を交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あそぼっこランドにある作品は、紐が風でゆれていてきれいだったよ。」 ・「シーソーにおいてあった作品は光が当たって、カップがキラキラしていて面白かったよ。」 ・「玄関の作品は組み合わせ方が面白くて、玄関を通った人が驚くと思うよ。」 ・「同じ材料を使ったけれど、色や組み合わせを変えるだけで、全然雰囲気の違いの違う作品になっていて、面白かった。」 	<p>◎作品を置きたい場所に置いて、友達の作品をグループで見に行く。自分の作品の場所では自分の作品に対する思いや工夫などを伝えながら鑑賞できるようにする。</p>	<p>【関・意・態】 身近材からできる形や色の面白さを楽しみながら取り組もうとしている。 (発言・つぶやき・活動の様子)</p> <p>【鑑】 友達の作品を鑑賞して、形や色の面白さを見つけ、自分の見方や感じ方を深めている(発言・つぶやき・活動の様子)</p>

8. 本時の活動（4／6時間 45分）

（1）本時の目標 身近材の形や色などの造形的な特徴を活かして、自分の表したいことを表したい方法で立体作品に表す。

（2）本時の展開

◇児童の活動 ・予想される児童の反応	◇教師のかかわり・手立て ◎造形的な見方・考え方が働くような手立て	評価規準【 】と 評価方法（ ）
自分の思いをオブジェに表そう。		
<p>◇めあてを知る。 ・「イメージスケッチをもう一回見てみようかな。」</p> <p>◇前回までの作品を途中鑑賞する。 ・「同じトレでもこんな使い方があるのか。」 ・「色の塗り方を変えるだけで、イメージが変わるな。」 ・「自分と同じ材料だけど全然形が違うな。」</p> <p>◇場所のイメージ生かしたオブジェをつくる。 ・「ペットボトルをジグザグに切って風を表してみよう。」 ・「トイレットペーパーの芯と、ラップの長い芯を組み合わせて大きな作品にして、インパクトを与えたい。」 ・「ストローの曲がる部分を生かして、枝みたいにしようかな。」 ・「紙粘土を◇の形にして工夫してつけてみようかな。」 ・「卵パックのでこぼこと、きらきらした素材を活かして、作品を作ったよ。」 ・「ペットボトルキャップのカラフルな色から、明るさを表現したよ。」</p> <p>◇振り返り ・「トイレットペーパーから、切り方を工夫して木みたいな形を作ったよ。」 ・「カラフルな色から、元気なイメージになったよ。」 ・「トイレットペーパーの芯と、ストローを組み合わせて、不思議な木みたいになったよ。」</p>	<p>◎見て見たふせんを交流する。 ・こんな材料から◇◇な形になったよ ・◇◇な形からこんなイメージになったよ ・◇◇な色からこんなイメージになったよ</p> <p>◎材料・用具の場所や接着の仕方の確認等を伝える。 ◎置きたい場所のイメージがいつでも思い起こせるように、写真を見られるようにする。 ○グルーガンの安全面に配慮する。 ◎他のグループの作業の様子も見られるように、材料置き場やその他用具の置き場の配置を工夫する。</p> <p>◎見て見た付せん ・こんな材料から◇◇な形になったよ ・◇◇な形からこんなイメージになったよ ・◇◇な色からこんなイメージになったよ ・～さんから○○を見つけたよ。</p>	<p>【関・意・態】 身近材からできる形や色の面白さを楽しみながら取り組もうとしている。 (発言・つぶやき・活動の様子)</p> <p>【発】 身近材の形や色などの造形的な特徴を活かしてイメージを広げている (発言・つぶやき・活動の様子)</p> <p>【技】 表したいことを表すために、表現方法や材料、用具などを選んだり、組み合わせたりして表している。(発言・つぶやき・活動の様子)</p>

9. 「造形的な見方・考え方」が働くような手だて

- ・「造形的な見方・考え方」を働かせながら、主題・材料・技法と関わることができるようにするために・・・
- ・「造形的な見方・考え方」を働かせながら、作品をつくったりみたりできるようにするために・・・
- ・「造形的な見方・考え方」を身につけ、生活に活かせるようにするために・・・

